

平成 23 (2011) 年度 東北大学法科大学院入学試験
試験科目：民事法（民法）

以下の第 1 問および第 2 問すべてに答えなさい。

第 1 問

A は、B に対して貸金債権 α （以下、「 α 債権」という）を有しており、これを担保するための手当ては講じていない。A としては、B の資産状況に照らして債務返済に問題を感じなかったからである。ところで、B の唯一の相続人となるべき C は、多額の負債を抱えている。そのため、B が死亡し、C が B を相続した場合には、A は、 α 債権の一部しか回収することができない。

このような場合において、B の死亡にもかかわらず A にとって債権の回収に役立つこととなる法的制度・手段として、どのようなものがあるか。B の死亡前に用いられる制度・手段と B の死亡後に用いられる制度・手段とを分けて論じ（それぞれ 1 つとは限らない）、あわせて、それぞれの手段が有する A にとってのメリット・デメリットがあればそれらを説明しなさい。

なお、A は、B の死亡前に直ちに α 債権を回収する意思を有しないものとする。

第 2 問

以下の小問 1 および小問 2 に答えなさい。

それぞれについて、答案紙 5 行程度で簡潔に解答すること。

小問 1 錯誤による意思表示の無効を主張することができるのはどのような者か。法律行為の無効の一般論と比較しつつ、説明しなさい。

小問 2 「夫婦の一方が成年後見開始の審判を受けた場合には当然に他方が後見人となる」という見解は、現行法においては、採られていない。関連する法文に言及しつつ、その理由を説明しなさい。